

[概要]

日本の労働市場において労働に見合った価格が決まっている。労働内容に対して資格や高度なスキルが必要な職業ほど、報酬としての賃金水準は高く設定される。しかし、社会には資格やスキルを必要とするにもかかわらず、労働と給与が見合わない職業が存在する。そのような職業が成り立つ要因として労働者側、雇用者側、社会側の3者のバランスが考えられる。

本稿では、第二種運転免許という国家資格を必要としながら、低い賃金での労働を余儀なくされている自動車運転代行業が成り立っている要因を明らかにする。富山県の2つの自動車運転代行業者の従事者にアンケート調査及びインタビュー調査と、自動車運転代行業1社の事業主と全国運転代行協会に聞き取り調査を行った。

調査の結果、自動車運転代行業は法制化前の不明瞭な料金設定や白タク行為によって社会から未だ職業上の地位が低い業種として認識されていることがいえた。また、料金が規制されていない問題や、社会の飲酒運転の厳罰化によって事業間で顧客獲得のための価格競争が始まった。そこで売り上げを確保するため雇用者側は、従事者に払われる人件費を削減していることがわかった。このように就労環境が整っていない自動車運転代行業であるが、労働者側は自動車運転代行業を兼業先として選択していた。本業のほかに兼業をすることを余儀なくされている人が運転代行業特有の就労条件を動機に能動的に就業していることによって自動車運転代行業には労働者側、社会側、雇用者側の3者のバランスが保たれていた。したがって自動車運転代行業という働きと給与が見合わない業種が成立してしまっていると考えられる。

キーワード：労働市場、自動車運転代行業、社会的評価、雇用者、労働者